



能登半島地震の被災地への寄付を募る東京珠洲会の本田ゆり子さん(左)ら。21日、東京・有楽町で



能登半島地震で被災した古里を支援しようと、首都圏在住の石川県珠洲市出身者らでつくる東京珠洲会が21日、東京・JR有楽町駅前などで募金活動をした。会員とその知人ら計約20人が参加。寒空の下、温かい善意と「応援しています」の声を受けた。(望月衣瑠子)

珠洲出身者ら東京で募金活動

「ずっと応援してほしい」

「能登半島を旅行し、素晴らしい景色を見た。地震はともシヨック。頑張る。多くの人が声をかける。活動に参加した横浜石川県人会代表の本田ゆり子さん(65)によると、珠洲会の5日間の活動で約80人が計140万円を寄せた。

「感謝しかない。ずっと応援してほしい」と本田さん。実家は珠洲市宝立町にあり、地元で家業を継いだ同級生の男性が、地震で命を落とした。新聞紙面にその名前を見つけた本田さんは「あんなに優しく、いい人が、なぜ」とシヨックを隠せない。

昨年暮れに帰省し、兄(73)の「洗濯したいけど水がない。洗剤も、缶すも。仮設トイレは一度の説明では使い方が分からない。温かいコーヒー、黒のフェルトペン、付せん、パケツ、粉末のスポーツ飲料、果物」。

本田さんは「思いも寄らない細かい物が必要だと分かった。皆さんの支援を生かし、現地の声に応えたい」と語った。



地震後の石川県珠洲市宝立町の状況。本田ゆり子さん提供

実家が一時孤立

珠洲市宝立町に帰省中に被災し、東京に戻った一般社団法人「日本食育HEDカレッジ」の小守幸恵さん(40)は、畜産農家の両親も被災。一時孤立し、地震の2日後に解消したものの、断水が続く。発電機の電力も足りない。

両親は実家で生活を続け、祖母(89)は余震の危険から、金沢市の避難所に身を寄せた。「祖母は帰りたいと言っけど、電気や水の状況を考えると、もう少し我慢しようかな」と小守さん。1月末には法人のキッチンカーで現地に入り、温かい食事をふるまう予定だ。



前田利家公の四女豪姫が嫁いだ宇喜多秀家が関ヶ原の戦いに敗れて配流された八丈島との歴史的な縁から交流が始まった宇喜多秀家公の顕彰会である久福会から能登半島地震に対する義援金が寄せられ、1月15日石川県東京事務所において中谷安孝所長に手渡されました。



〒215-0035
川崎市麻生区黒川685-15
東京奥能登応援団
光眞 章

歴史が縁 被災地に義援金を

能登半島地震で甚大な被害を受けた石川県にゆかりがある鴻巣市本町の法要寺が、義援金を募っている。同寺は江戸時代に加賀藩が参勤交代の際に休憩したと伝わり、その歴史が縁で同県珠洲市のキリシマツツジが約2年前に境内

に寄進された。寄進に尽力した同市出身で石川県人会（東京）の常任理事、光真章さん（76）は「同郷の人々とお寺の交流の中で義援金を集めていただけるのは大変うれしい」と感激している。

（菅原洋）



鴻巣・法要寺 石川県珠洲市の「ツツジ」

28日 祈禱行事

現地へ気持ち示したい

川崎市在住の光真さんは21、22日に帰省した時の現地の状況を振り返った。今回の地震で珠洲市は震度6強を記録。実家で暮らしていた義理の姉は無事だったが、まだ近くの避難所にいるという。

深い縁を感じた光真さんは石川県の天然記念物「大谷のキリシマツツジ」の移植を提案し、2022年4月に6株を寄進し、その後、開花も観賞。翌年4月にも県人会員ら数人と花を見に訪れた。光真さんは

募金箱を手にキリシマツツジを見る小寺秀仁住職。後方が鐘楼堂＝鴻巣市で



「珠洲の実家は海から約30分の近さにあり、津波で床下浸水し、損壊が激しかった。一帯は壊滅的な状態で、凄惨な光景が広がり、がくぜんとした」

真さんは同寺が加賀藩にゆかりがあると知り、約10年前に県人会の有志とともに立ち寄った。その際、境内の鐘楼堂に珠洲市産の木材を使ったことも知った。

「法要寺を今後も関東の同郷の人々が集える場所にした」と語る。同寺の小寺秀仁住職（78）によると、江戸後期の加賀藩の日記に参勤交代の一行が中山道の鴻巣宿近くにある法要寺で休憩したという記述がある。寺の言い伝えでは、当初予定していた場所が使えなくなった一行を同寺が受け入れたため、お礼に前田家から「梅鉢紋」を寺紋として与えられたという。

小寺住職は十数年前、鐘楼堂の木材の原木を見に珠洲市へ足を運んだこともあり「思い入れがあり、海がきれいな珠洲が津波や地震で大変なことになるとは。現地には行けないため、義援金で気持ちを示したい」と話している。

同寺は今月初めから法事の際に募金箱を置き、行事のない時も寺の関係者がいれば募金できる。28日午後1時ごろから祈禱行事があり、義援金を募る。義援金は光真さんを通じて現地役立てられる。